

文明の終結 大国の興亡

令和5年12月21日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

歴史は皮肉である。終焉においてその真実を問うのである。

全ての清算は、その文明の終結を得るものである。歴史における英雄は、未来において自己を得るのである。

これらは西洋とアメリカにおける人々の時代という現実は全ての現実への考査を与え、その選択を世界が行うのである。

大国の興亡は、これら民衆という正義への戦いであるならば、世界は選択を有するものである。

権力は世界の全てを有したのである。他方において民衆はこれら現実へ対峙するものである。

希望が存在しないという世界は真実なのである。民衆はその娯楽を求め、メディアはそれを扇動する。

愛国主義は、その権力と富において自己を放棄するならば、国民に未来はないのである。

歴史は大国の興亡とともに自己を有する。そして文明はその終焉を有するのである。

これらへの正しい考察は、歴史における真実という是非である。正しいことは永続し誤りはそれを失うのである。

これが世界と歴史の清算である。

英雄は自己を問い、未来を有するのである。